既設下水道管路施設への接続について（お願い）

平素は、大津市企業局上下水道ガス事業に格別のご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、下水道事業において、雨天時に多量の雨水が浸入し下流域で汚水が溢れたり、マンホール鉄蓋が飛散するなど早急な対応が求められているところであります。

また、地下水や雨水は本来なら処理する必要のない水であり、これら浸入水の処理費用や、浸入水（不明水）の調査や対策工事などの多大な費用は、全て**下水道使用料**によりまかなわれている観点からも、なお早急な対応が求められるものであります。

このことから、既設管路への接続箇所の施工管理については注意していただいているところでありますが、いまだに写真不足や施工不良などによる手直し工事の指導が多発しております。

舗装本復旧後の手直しになりますと、内面補修工法など多額な費用負担となりますので、下記のとおり再度注意して施工管理していただくとともに、**申請書類にも**下記のいずれの方法で施工するのか**図示**もしくは**明記**していただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

① 既設人孔への接続時の注意点

本管・取付管ともに、既設人孔へ接続する場合は施工後の浸入水が無いよう十分注意していただく必要があります。本市では管口止水工を標準としておりますが、ゴム製可とう継ぎ手(拡径タイプ)など施工や写真管理が容易な製品も承認しております。

本市で標準としている管口止水工については、標準図どおりの寸法で施工できているか、管の下まで施工できているかをしっかり確認できる写真管理が求められます。

◎管口止水工

- 管口止水工の施工について、下水道標準図の寸法どおりか（高さ、幅、厚みが確認できる写真）
- 管の下までしっかり施工できていることが確認できるように写真管理してください。
- 接写ばかりで施工箇所が特定できないものも指導・手直しの対象となります。
- 全施工箇所について写真管理が必要です。

◎ゴム製可とう継ぎ手(拡径タイプ)

- ホールソーでの穿孔状況（遠景写真）
- 穿孔完了写真。（検尺）
- 継ぎ手設置完了（拡径完了）写真
- 以上の３枚で結構ですが、全施工箇所について写真管理が必要です。

② 本管への取付管接続時の注意点

取付管支管の施工について、本市では番線の緊結を標準としておりますが、メカロック支管などの施工や写真管理が容易な製品も承認しております。

当初から地下水位が高いことが分かっている場合や、中心市街地において、ガスや水道などの既設埋設管が多く、番線を巻きつける為に既設管の全周を掘削することが困難な中心市街地においては、有効な製品であると推奨しております。

◎番線緊結による支管取付の注意点

- 施工箇所がしっかり乾いていることが確認できる写真が必ず必要です。
- ボンドやパテが支管の裏にしっかり塗布できていることが確認できる写真
- 番線を巻きつける為に既設管全周を掘削できていることが確認できる写真。（写真管理は、全景と接写により工夫していただく必要があります。）

・　本管がリブ管の場合は、支管の溝が本管のリブにしっかり合うように設置できていることが確認できる設置完了写真

◎メカロック支管等（ワンタッチ式）

・穿孔完了写真（検尺）と、設置完了写真のみで結構です。（ともに施工箇所が特定できる全景写真が必要です）

③取付管撤去時の本管閉塞の注意点

◎本管がヒューム管の場合

・既設の支管を撤去し、閉塞栓に接合剤を塗布し番線で緊結する方法が標準となります。

・施工および写真管理の注意点は、取付管支管の取付注意点と同じです。

◎本管が塩ビ管もしくはリブ管の場合

・既設の支管はボンド付けされているため撤去できませんので、取付管を支管部分から撤去し、既設の支管に塩ビキャップで閉塞し、モルタル防護工を標準とします。
しっかりボンド塗布されていることが確認できる、ボンド塗布完了写真が必要です。

以上の項目において、**写真による確認が出来ない場合**は、再度掘削して確認できる写真をとっていただくか、内面補修工法などによる**手直し**の指示となります。

何卒、現在の大津市公共下水道が抱えている問題をご理解いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

疑問や施工中に問題などあれば、下水道整備課 077-528-2767 までご相談ください。